

「薬を安全に使いこなす」ための“次世代インフラ” — クラウド型 DI システム 「SmartDiX®(スマートディックス)」を正式リリース

当社は、グローバルビジネスソリューション株式会社（東京都墨田区）との共同開発によるクラウド型ドラッグインフォメーションシステム「SmartDiX®（スマートディックス）」を、2025年6月2日に正式リリースいたしました。

本製品は、地域での医療連携や服薬管理を支援する、新しい“医薬品情報インフラ”として設計されました。医師との接点が限られるこれからの地域医療においては、“人”と“薬”で命を守る時代が訪れます。

SmartDiX®は、患者さんが安心して服薬できる地域社会を支えるために開発された、新しいクラウド型の情報連携基盤です。病院・診療所・薬局・介護施設・患者をつなぎ、地域全体の医療の質と安全性を高める— SmartDiX®は、次世代の地域医療連携を支援する“医薬品情報のハブ”として機能します。



SmartDiX®は病院・診療所・薬局・介護施設・患者の皆様をつなぎ、薬物医療のレベルを向上に貢献し地域の医療を守ります。

【開発の背景と想い】

現在、医薬品による副作用や禁忌投与は、地域医療における大きなリスクとなっています。なかでも、病院・診療所・薬局・介護施設といった複数の機関をまたぐ情報の分断は、適切な薬物治療を妨げる深刻な課題です。

一方、我が国では人口減少と超高齢社会により、医療費の増大と医療人材の不足が顕在化しています。これを受け、国は「地域医療構想」や「病床機能再編支援事業」を通じて、約 20

万床規模の病床削減を打ち出し（特に急性期病床の見直し）、在宅・地域包括ケアへの移行を急速に進めています。

それに伴い、“かかりつけ薬局”には、単なる調剤拠点を超え、患者を支える“地域医療のハブ”としての役割が求められています。服薬管理、副作用モニタリング、医療・介護との連携強化など、薬剤師が担う責任は年々大きくなっています。

しかし現場では、必要な情報が複数のシステムに分散し、迅速かつ的確な判断を下すには限界があるという声も多く聞かれます。薬剤師の皆さんの業務負担も、日々増しているのが現状です。

SmartDiX[®]は、こうした現場の切実な声と、「地域全体で患者さんを守りたい」という思いから生まれました。採用薬情報や電子お薬手帳、検査値や副作用データをつなぎ、持参薬の鑑別や処方チェックの精度と効率を高めます。さらには、地域全体の医薬品調達・運用の最適化にもつながります。

“情報の力で、守れる命がある”。

私たちは SmartDiX[®]を通じて、医療の現場に判断の支えと、つながりの安心を届けたいと願っています。

【SmartDiX[®]の主な機能】

- 医薬品副作用情報チェック機能
- 医薬品間の相互作用チェック機能
- 持参薬鑑別・同種同効薬検索機能
- 病院ごとの採用薬情報クラウド共有機能
- 電子お薬手帳（e 薬 Link、Pocket Pharmacy など）との連携機能
- 患者検査データとの連携・表示機能(オプション)
- 副作用指導支援（オプション）
- 電子カルテ／処方システムとの API 接続機能(予定)

【薬剤一覧】18,000品目以上収録の投薬チェックマスター、製剤写真・添付文書（効能/副作用等）を下記の様々な条件に沿って検索、表示することが可能です。

【採用薬一覧】医療機関ごとに設定された採用薬リストをクラウドで一元管理・自動同期することで、薬局や訪問看護、在宅医療など多職種間での情報共有が可能になります。誤処方や在庫不足、無駄な在庫確保を防ぎ、災害時には地域全体での薬剤供給体制を迅速に構築できる仕組みを提供します。



【禁忌チェック】患者持参薬やお薬手帳連携で取り込んだ電子お薬手帳のデータから、取り込んだ薬剤情報を元に、添付文書比較。処方の際に、副作用や禁忌をチェックし、添付文書で禁忌理由を確認可能です。



【お薬手帳連携】電子お薬手帳相互参照（e薬Link）との連携を始めとした各社電子お薬手帳と連携することで、患者が持参した薬の情報を自動で読み取り、処方時の禁忌薬や重複投与を即座にチェック可能にします。医療機関や薬局間での情報共有を効率化し、服薬ミスの防止と指導業務の質向上を実現します。

【SmartDiX®導入による主な効果と事例】

- 禁忌投与・重複投与の防止による医療安全性の向上
- 入院時の持参薬鑑別の効率化による医療従事者の負担軽減
- 地域全体の医薬品在庫最適化による廃棄リスクや欠品の抑制
- 災害時の避難所への適切な薬剤提供体制構築
- レセプト検証作業の効率化
- 医療従事者の働き方改革への貢献
- 地域単位での薬物治療レベルの向上
- 薬局薬剤師の地域医療における役割向上
- 介護施設における介護の質と安全性の向上

また、オプションで検査値 DB 連携機能追加を予定しています。大学病院での事例では、医薬品と検査値を連動して確認できるデータベースを導入した結果、それまでほぼ行われていなかった疑義照会が、年間約 600 件に増加。そのうち約 140 件で処方変更が行われ、特に病態禁忌に関する変更は 30~40 件に上りました。薬剤師による処方監査の精度が大幅に向上し、副作用や禁忌投与の未然防止に大きく貢献した事例です。

【今後の展望】

- マイナポータル連携による情報参照の強化
- 電子処方箋との統合による処方精度のさらなる向上
- 地域医療ネットワーク全体への展開と支援体制の構築

「日本の医療は、病床削減や在宅シフトを伴う政策により、地域で支え合う体制へと大きく

変化しています。薬剤師の役割も、調剤にとどまらず連携と判断を担う存在へと進化しています。こうした変化の中で、SmartDiX®は情報の力で患者さんを守るために生まれました。私たちは、この仕組みが地域全体の医療の質と安全性を高め、笑顔広がる社会の一助となることを願っています。」

【製品概要】

- 製品名：SmartDiX®（スマートディックス）
- 提供開始日：2025年6月2日
- 提供形態：クラウド型サブスクリプションサービス
- 対象：医療機関／保険薬局／介護施設／地域医療ネットワーク

【開発および販売元】

株式会社メディカルフロント

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 3-8-4 BABA ビル 6F

TEL：03-6661-0892

グローバルビジネスソリューション株式会社

〒130-0013

東京都墨田区錦糸 1-2-1 アルカセントラル 14F

TEL：03-6853-6652